

## 特集「インタラクションの理解とデザイン」の編集にあたって

角 康 之†

本特集は、2007年3月に学術情報センター橋記念講堂で開催されたシンポジウム「インタラクション2007」(大会委員長:河野恭之,プログラム委員長:角 康之,プログラム副委員長:井上智雄)に連動した企画である。

シンポジウム「インタラクション」はヒューマンコンピュータインタラクション研究会,グループウェアとネットワークサービス研究会,ユビキタスコンピューティングシステム研究会の三研究会の主催で開催されており,人と人,人とコンピュータ,人と環境の間のインタラクションについて,ヒューマンインタフェース,メディア処理,協調活動支援,認知科学,心理学,アートといった幅広い視点から最新研究成果を集め,議論する場である。採択率が3倍程度の厳しい査読を経た論文発表,70数件のデモンストレーション(インタラクティブ発表),および70件程度のポスター発表から構成されている。国内シンポジウムとしては発表件数,参加者ともに最大規模で,インタラクション2007では660名を超える参加者を集めるまでに発展してきた。

以上のとおり当該研究分野への注目度は高く,進歩が早いことから,その成果をより広く公開していくために迅速な論文文化の機会を提供することが非常に重要である。そこでインタラクション2007の開催時期にあわせて本特集号を組み,インタラクション2007における発表論文および関連研究を広く集め,速やかに公表する機会とした。また,この分野は幅広い分野にまたがる境界領域であり,価値観が多様化していることを受け,論文はインタラクションに関する基礎原理から応用分野までを広く対象として募集することとした。

本特集はゲストエディタ制により,下記の特集号編集委員会の責任で編集を行った。ゲストエディタにはインタラクション2007のプログラム委員長をつとめた角(京都大学)が就任し,編集委員にはインタラクション2007の主要プログラム委員が就任した。投稿された各論文は,編集委員がメタ査読を担当し,各編2名の査読者による並列査読の報告に基づき,メタ査読処置案を作成し,特集号編集委員会において慎重に審議の上,採否を決定した。投稿された論文は69本で

あった。査読者,編集委員,および照会に対応していただいた著者のご尽力により,最終的に29本の論文が採録となった。これだけ多くの投稿があったのは,近年,シンポジウム「インタラクション」への発表申し込み件数が大幅な増大傾向を見せていることと相まって,シンポジウムとそれに連動する特集論文が広く認知されてきたためと思われる。

本特集ではインタラクション2007で発表された論文のうち特に評価の高かった4件を推薦論文として掲載することができた。インタラクションに関する研究分野はまだ発散状況にありつつも,確実に,その原理の理解とそれに基づいたシステムデザインに関する研究が生まれつつあり,その状況が本特集にも反映できたと考える。これも,著者の方々,査読者,特集号編集委員,ならびに学会事務局の皆様のご尽力によるものであり,深く感謝する。

なお,シンポジウム「インタラクション」については,過去に発表されたすべての論文が<http://www.interaction-ipsj.org/archive.html>に公開されているので,あわせてご活用いただきたい。

### 「インタラクションの理解とデザイン」特集編集委員会

- 編集長  
角 康之(京都大学)
- 編集幹事  
井上智雄(筑波大学),河野恭之(奈良先端大)
- 編集委員  
青木 恒(東芝),五十嵐健夫(東京大学),稲見昌彦(電気通信大学),内海 章(ATR),大向一輝(情報学研究所),岡留 剛(NTT),加藤直樹(東京学芸大),葛岡英明(筑波大),久保田秀和(京都大学),小林 稔(NTT),寺田 努(大阪大学),中小路 久美代(東京大学),中西英之(大阪大学),西本一志(北陸先端大),細部博史(情報学研究所),間瀬健二(名古屋大学),三浦元喜(北陸先端大),美馬義亮(はこだて未来大学),森島繁生(早稲田大学),吉野 孝(和歌山大学)

† 京都大学情報学研究所